

# インド、カンボジアで国際識字デー(9月8日) 記念イベントを開催

9月8日は「国際識字デー」\*1です。世界寺子屋運動\*2の支援地では、毎年「国際識字デー」を記念したプログラムを実施しています。今年度は、インド、カンボジアでユニークなイベントが行われました。



誇らしげに修了書を受け取る参加者

インド、カルナータカ州ゴカック内の45村で実施されている「インド・ゴカック・プロジェクト」では、600人余りの女性が集まり、大規模な「国際識字デー」の集いが行われました。

集いのメインプログラムは、6月に実施した短期集中識字教室修了者への修了書授与式でした。この識字教室は、村の女性たちの学びたいという要望に応え、州の成人識字局や識字リソースセンターとの協力のもと、家事や子育て、日雇いの仕事などで忙しい女性たちでも学びやすいように短期間に設定したものです。毎日4時間、計20日間集中して読み書きを学習しました。

授与式では、「読み書きができるようになったので、みんなの前で発言する勇気が持てた」「セルフ・ヘルプ・グループ(自助グループ)活動\*3の帳簿記録がきちんとできるようになった」と識字教室で学んだ成果を発表しました。

カンボジアでは、トンレサップ湖(カンボジア西部)のチョンクニア(7村から成る)にて、世界寺子屋運動の支援\*4により新造された水上寺子屋の開所式典が、教育大臣の出席のもと、約1000人が集い盛大に行われました。日本からも協力団体である全富士通労働組合連合会と電通グループ4社の代表者らが出席し、共に完成を祝いました。

ステージ上では、仏教にのっとった儀式を皮切りに、関係者によるスピーチが行われ、旧水上寺子屋の学習者代表としてクロチ・ヤートさん(54歳)が、当協会連盟ビデオシリーズのカンボジア編にも登場しているソバナリーとチンダの双子の姉妹を左右に従え?!堂々と作文を読み上げました。

「以前は全くの非識字者だった私は、1994年~1995年にかけて2度、水上寺子屋の識字クラスに通い、今では読み書き計算もできるようになり、家族の生計も助けられるようになりました」と述べた彼女は今、村の女性たちのリーダーとして活躍しています。



スピーチをするクロチ・ヤートさんとソバナリーとチンダの双子の姉妹

\*1 1965年イランで開かれた国際会議でのパーレビー国王(当時)の呼びかけ「一日の軍事費を識字のために使おう」がきっかけで、UNESCOが1966年に制定。

\*2 世界寺子屋運動についてはこちら <http://www.unesco.or.jp/contents/tera/index.html>

\*3 セルフ・ヘルプ・グループについてはこちら <http://www.unesco.or.jp/contents/tera/report/ind16.html>

\*4 カンボジアにおける寺子屋運動についてはこちら <http://www.unesco.or.jp/contents/tera/report/khn.html>